

学習内容報告書 フォーマット

学校名	和歌山県立串本古座高等学校
授業者	長谷川 航, 田端 祐介

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

南紀のジオを学ぶ

1-2. 学年

3 学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

南紀自然文化探究（理科）

1-4. 単元の概要

和歌山県の紀南地方にある南紀熊野ジオパークについて、串本で起きたドラマチックな地球の活動を自然の作り出した地形を観察し、地形の成り立ちやそのダイナミックな地殻変動の歴史を学ぶ。また、そのような地形や地質が、どのような地域文化を形成してきたかを考える。




1-5. 単元設定の理由・ねらい

南紀熊野ジオパークについて学ぶことで、地域の成り立ちや価値について知り、当地域の持つ独特な自然景観や文化について、ジオパークの視点から会話や文章を用いて他者に説明できるようになる。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

南紀熊野ジオパークで見られる地質・地形に関する基礎的な知識
当地域の持つ文化と、地形地質の関係性に気付くこと
地域を愛し、地域の課題の解決に対して主体的に取り組む態度
講義内容をまとめ、文章として発表する力

1-7. 単元の展開 (全 20 時間)

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
2	<p>南紀熊野ジオパークセンター見学</p> 	<p>南紀熊野ジオパークセンター専門員によるセンター展示を使った地域の地質解説</p> <p>聴く態度、内容のまとめレポートを評価</p>
4	<p>司馬遼太郎「街道をゆく 古座街道」の輪読</p>	<p>本校国語科教員による「街道をゆく」の解説</p> <p>内容に関する試験で評価</p>
3	<p>「街道をゆく」現地巡検</p> 	<p>南紀熊野ジオパークセンター専門員および本校教員による、「街道をゆく」に描かれた場所に行き、その景観の科学的な成り立ちや文化的背景を学ぶ</p> <p>試験、レポートによる評価</p>
7	<p>南紀熊野ジオパークの地質・マグマ解説 実験</p> 	<p>南紀熊野ジオパークセンター専門員による講義・実験指導</p> <p>態度、試験を評価</p>

2	<p>ジオサイト見学（紀伊大島）</p> 	<p>南紀熊野ジオパークセンター専門員による地域の地質解説</p> <p>態度、試験を評価</p>
2	<p>ジオサイト見学（那智山）</p> 	<p>南紀熊野ジオパークセンター専門員による地域の地質解説</p> <p>態度、試験を評価</p>

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ




単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

紀伊大島の地質や景観の特徴を、現地見学によって学ぶ。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
 <p>紀伊大島「地獄の釜」見学</p>	<p>紀伊大島南東側の地質、地形の特徴について、観察とジオパーク専門員の解説を聞き、メモ用紙にまとめる 教員は生徒質問への対応や安全確認を行う</p> <p>地獄の釜の成因について、観察とジオパーク専門員の解説を聞き、メモ用紙にまとめる。 教員は生徒質問への対応や安全確認を行う</p>
 <p>紀伊半島南西側須江海岸見学 大島東西での岩相・地質の違いを体感する</p>	<p>紀伊大島南西側の地質、地形の特徴について、観察とジオパーク専門員の解説を聞き、メモ用紙にまとめる。同じ火成岩地質でも、岩相や地形に違いがあることを気づかせる。</p> <p>教員は生徒質問への対応や安全確認を行う</p>
	<p>苗我島の火成岩地形について、観察とジオパーク専門員の解説を聞き、メモ用紙にまとめる。</p> <p>成因について教員のヒントをもとに考える。</p> <p>評価 話を聞く態度は適切であったか メモをきちんと取れているか</p>

3. 今回の活動の自己評価

本単元は、南紀熊野ジオパークセンターと協力し、南紀熊野地方の地形・地質や文化を学ぶものである。地元出身の生徒であっても、ジオサイト（特徴的な地質・地形がみられる場所）に設定されている場所に行ったことがないという生徒も少なくない。また、本校では地学基礎・地学の授業の開講がされていないことから、地質地形についての生徒の親しみも少ない。しかし、本地域は南紀熊野ジオパークとして認定されており、また2019年7月にはジオパークの拠点施設が本校近傍の串本町潮岬に開所するなど、当地域を知りするためにはジオについて知ることは大変重要であると考えられる。

単元の中では、教師による授業でなく南紀熊野ジオパークセンターの専門員の方に授業担当をお願いした。専門家の話を聞くことで、生徒たちは普段の授業にはない視点でこの地域を知ることができた。また、今年度からは国語科とも連携し、理科的な観点からの授業だけでなく、文化的観点から地域の景観や地質を見るという授業を行ったことで、より複合的に地域を理解することができたと思う。

4. 今後の課題

本年度は受講人数が少数であったこともあり、昨年度より丁寧な指導ができた。また、実習前に講義や実験を通じて、専門知識を学習していたので、より深い学びになったと感じている。

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、計画していたジオパーク全国大会での発表が実施できなかった。来年度は、何らかの形で学習の成果をアウトプットできるように、手立てを考えたい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。